消防士と一緒に楽しく餅つきしたよ
～まくらざき保育園で「火の用心 餅つき」

■11月９日から15日まで実施された「秋季全国火災予防運動期間」初日の９日、枕崎消防署による「火の用心餅つき」がまくらざき保育園で行われました。

これは、消防署職員とふれあうことで、火の用心の大切さを教えることを目的に行われたものです。参加した園児約75名は、重い杵（きね）をなんとか抱え、手伝ってもらいながら懸命に餅つきをしました。

参加した篭原大和君（５歳）は「楽しかった。食べてもおいしかった」と話してくれました。

一年間の成果をイキイキと発表
～第43回市総合文化祭 市民芸能祭

■市総合文化祭市民芸能祭が11月３日、市民会館で開催され、園児の遊戯やフラダンス、合唱など市内の40団体が発表しました。市総合文化祭は、10月24日から11月３日まで南溟館や市民会館で行われ、絵画や写真、盆栽の展示などがあり、一年の成果を発表しました。

琴松会、歌松会による演奏

火の神保育園児によるお遊戯

来年も実がなっご たのんもーす
～妙見保育園「亥の日の行事」

■田の神様に、今年の豊作を感謝する伝統行事「亥の日の行事」が11月13日、妙見保育園隣の田んぼであり、園児や保護者など合わせて約120人が参加しました。

参加者は「一升まき三升あれ　もーもーもー」と言いながら、今年収穫したもち米で作った餅を食べました。この餅を食べると一年健康でいられるといわれています。

また、餅をワラで包んだ「つと」を投げ、それを園児たちが追いかけ取り合う遊びも行い、来年の豊作をみんなで願いました。

参加した松元亮磨君（６歳）は「楽しかったし、おいしかった」と話してくれました。

児童と高齢者との温かなふれあい
～別府小学校児童と高齢者とのふれあい交流活動

■毎年恒例となっている別府小学校児童と地域の高齢者とのふれあい交流活動が11月６日、別府小学校で行われ、４年生19名と高齢者34名がグラウンドゴルフや給食試食会をとおして交流を深めました。この交流会は、11月１日から７日まで地域が育む「かごしまの教育」県民週間の期間中に行われました。

グラウンドゴルフでは、上手くボールが転がらない児童に高齢者の方が優しく教えたり、児童は笑顔で学校での活動を話したりと楽しくプレーしていました。参加した川合海斗君は「いろんな話ができて楽しかった。打ち方のコツを教えてもらった」と話してくれました。

鰹節工場を見学

「劇団ぶえん」による寸劇

枕崎の魅力を伝えるツアー案内人

南溟館で茶節作り体験

市内各地をバスで移動

まちづくりは人と人とのコミュニケーションから
枕崎大好きツアー

投稿

投稿者　枕崎青年会議所　山崎大生さん

枕崎のいいところ満載 おもてなし満天のツアー

11月８日、枕崎大好きツアーを実施したところ、市外から26名の参加がありました。

このツアーは、枕崎の魅力を最大限に活用し、枕崎をもっと好きになってもらうことと、協働での「まちづくり」への足がかりを目的としたものです。枕崎の歴史、文化、食や景観などがいっぱい詰め込まれた内容でおもてなししました。

協働で築く「まちづくり」の形

ツアーでは、４名のツアー案内人をはじめ、かつお公社、劇団ぶえん、飲料店、鰹節店、明治蔵、平和祈念展望台のガイドさんや行政など、多方面から多くの協力をもらいました。

ツアー参加者からは「枕崎いいところだよ！と帰ったら宣伝します」「枕崎の人たちのあたたかさを感じた」など、大満足の声が聞かれました。このように満足してもらえたのは、協力していただいたみなさんが、情熱をもって予定していた以上のおもてなしをしたからだと思います。

さらに多くの市民・団体・企業・行政が手を取り合い「まちづくり」を進めることで、さらに魅力的なまちになるだろうと強く感じたツアーでした。

立神小学校が学校・個人賞ともに最高賞
～緑茶図画コンクール

■南薩地区茶業振興会主催の緑茶図画コンクールで立神小学校が学校賞金賞を、個人賞でも同小学校２年生の田中紫苑君が作品「楽しいお茶つみ」で最優秀賞を受賞しました。田中君は「茶摘みを楽しそうにしているところを描いた。うれしい」と話してくれました。

コンクールには、南薩地域４市から23小学校、82点の応募があり、本市からも全小学校が参加。金山小学校が学校賞銀賞を受賞するなど、個人賞も各学校から多数出ました。

◎立神小学校の個人賞受賞者。写真左から白澤未花さん（３年）、田中紫苑君（２年）、板敷海星君（２年）、鮫島陸大君（２年）

水産高校100周年を盛大に祝う
～鹿児島水産高校 創立100周年記念式典

■鹿児島水産高校が今年で創立100周年を迎えました。その記念式典が11月７日、同校の体育館で行われ、在学生や卒業生、その他関係者など約540人が出席し100周年を盛大に祝いました。

式典では、中村富士郎校長が「本校は一世紀の間、8,635人の卒業生を送り出し、多くの分野で活躍している。築き上げてきた歴史と伝統を受け継ぎ、一層の飛躍を目指したい」と式辞を述べました。また、生徒代表よろこびのことばでは、生徒会長の久保徹君が「100年続く歴史の最先端にいる私たちは、まだ見ぬ後輩たちの糧となるよう努力しなければならない。それが後の水産高校の姿につながる」と力強く述べました。